

平成29年度の経営協議会における学外委員からの主な意見とその対応状況

平成30年6月29日現在

学外委員からの主な意見	対応状況
帯広畜産大学の存在価値を高めるため、学生のアイディア等も取り入れながら、畜産の魅力や重要性をより積極的に発信していくべきである。	学生が主体となり帯広中心部を舞台に地域活性化を図るちくだいらんぷ事業に、新たに創設した「ちくだいらんぷプロジェクト」がある。このプロジェクトは、「学生のチャレンジ」をキーワードに、学生の創造的なアイデアの実現を後押しするものであり、この活動を支援し、情報発信する。
魅力的なシーズ集を作成し、ホームページで公開する等するとよい。	平成29年度に研究シーズ原稿提出を全教員に依頼し、平成30年度1月にシーズ集を作成。ダウンロードできるよう改め、ホームページに掲載した。
科研費の獲得状況について、教員の年齢別データ等を作成し、戦略的な対策に利用するとよい。	大学情報分析室と連携し、部門・センター別、職位別等の申請・採択状況について分析結果を作成し、機能強化推進本部会議で対策を検討するとともに、運営会議にて各部門・センター長にフィードバックすることにより、申請率の向上を促している。 また、科研費採択率向上を目的として、平成29年度より主に40歳以下の若手教員を対象に実施した「科研費等外部資金申請アドバイザー制度」では、13件の申請のうち、8件が採択された。
欧米の規模に比肩できるよう、畜大がリーダーシップを取りつつ、将来的には全国の獣医学部を有する大学が一つの連携を構築することも考えるべき。	他の獣医学系大学との連携としては、国立大学改革強化推進補助金による4大学(帯広畜産・北海道・山口・鹿児島)連携において、2つの共同獣医学課程の一層の高度化に取組み、北日本と南日本の地域特性を生かした教育プログラムの開発と相互利用、国際認証の取得に向けた戦略的連携を推進している。この連携をさらに発展させ、全国獣医学系大学に対しても、①獣医学系デジタルコンテンツの提供(将来的には相互提供に拡大するよう協力要請)、②実習教育拠点として、他大学の学生及び社会人に対し、臨床実習や卒後教育を提供、③国際認証取得に関する情報の提供、といった事業を展開しており、今後も継続・発展させていく予定である。